

【新得】旧狩勝牧場（町西6線91）の活用策として、J A 新得町（太田眞弘組合長）を中心に、就農を希望する女性たちの受け皿として新牧場を立ち上げる構想が練られている。町の女性専用農業体験実習施設「レディースファームスクール（L F S）」と連携、L F S 修了生らが牧場で預託牛の育成に携わる。農業現場の労働力不足解消を図ると同時に、L F S 修了生の町内定着につなげる。

町内には町営育成牧場があるが、酪農家の人手不足や規模拡大の要請を背景に拡充が求められている。一方、1996年に開設したL F Sは女性に特化した研修施設として注目されたが、近年は研修生が減少。通年雇用が難しい畑作志望者を中心に、修了生が町外に流出している。

構想では狩勝牧場跡を拠点に新法人を立ち上げ、600頭規模の預託牛の飼養管理をベースに事業を展開する。

6次化を念頭に、数十頭程度の搾乳も検討する。畑作志望に応えるため、十勝の基幹作物の栽培も想定。いずれも生産より人材育成が目的で、地域の生産者と連携しながら技能の向上を図る。

旧牧場の事務所や従業員の住宅は、そのまま利用できる見込み。牛舎は老朽化が進んでおり、衛生面や効率面から建て替えが必要としている。具体的なスケジュールや予算は今後詰める。

狩勝牧場は農業発展や地域貢献を理念とした。同J A 畜産部の窪田貴友部長は「構想段階だが、狩勝牧場の思いを受け継ぎ、地域の課題解決に資するという本質は貫きたい」と強調。「町や生産者、商工業者などとプロジェクトチームを立ち上げ、多くの町民に応援してもらえぬ取り組みにしたい」と話す。

同牧場を所有する町も構想の実現に前向き。浜田正利町長は「L F Sの『出口対策』は開設当初からの課題だ

った。興味深い提案で、何とか形にできれば」と話している。



農業女子の育成施設に転換を検討している
新得町の旧狩勝牧場

<狩勝牧場>

トヨタ自動車販売社長だった故神谷正太郎氏が、私財を投じて1970年に設立。先進的な設備の法人経営で、地域酪農をけん引した。面積は約370ヘクタール（農地は132ヘクタール）、最盛期には乳牛約300頭を飼育した。従業員の確保難などで2018年3月に閉鎖。跡地は町が取得し、J A子会社のシントクアユミルクが飼料確保のため借り受けている。

明治は十勝工場（芽室町東芽室北1線）に、同社初となるフレッシュモzzarellaチーズの生産ラインを新設、生産を開始した。ライン新設の投資額は約30億円。

国内のチーズ消費量は年々伸びており、同社はチーズ事業を成長領域と位置付けて生産に力を入れている。フレッシュモzzarellaの市場規模は2019年度は78億円となり、12年度の1.7倍となっている。

今月下旬から稼働した新ラインでは、9月28日から北海道、関東甲信越、関西エリアで先行販売する「明治北海道十勝生モzzarella」を生産する。

熟成していない乳酸菌が生きた状態のナチュラルチーズ（生チーズ）で、生乳のおいしさを引き出し「ミルク感」にこだわって製造する。鮮度を保持できるよう、遮光性に優れた蒸着フィルムを使用する。

同社は手でモzzarellaをちぎって手軽に楽しむレシピも紹介。「フレッシュモzzarella市場のさらなる拡大を図る」としている。



フレッシュモzzarellaチーズのラインを
新設した十勝工場